

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立結出小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを誇りに思い主体的に行動する結出っ子の育成				
基本方針	未来を生きる子どもたちの成長を支える地域社会総がかりでの教育の推進				
本年度重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進(進んで学ぶ) 2 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進(体をきたえる) 3 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成(人のためになる)				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A
		一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A
④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の考えを表現できるよう音読や暗唱など基本的なことから日々取り組んできたことで、感想発表やスピーチなどに対する児童の苦手意識がかなり少なくなった。 タイピングの技能を高めることに対する児童の関心は高かったが、その技能を高めるための十分な時間を確保することができなかった。 地域についての学習を効果的に行うための仕組みづくりが、十分にできなかった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> タイピングがスムーズに行えるように継続的、計画的に時間を確保し、その技能を高める。 総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画を精査し、学校運営協議会と連携しながらよりよいものに仕上げている。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
③ 基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A A	A	
④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート ・教師アンケート ・児童アンケート	A A A A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童を取り巻く大人たちが児童との日々の関わりを大切にしていることで、3人の児童が素直で優しい心を持って育っている。 教職員、保護者、地域が連携して、児童の良いところを褒め励まし続けてきたことで、児童の自己肯定感が高まってきた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の乱れがちな児童の意識そのものを変えられるように、健康や生活習慣に関する授業を継続して行っていく。 学校で学んでいる生活習慣に関する内容や改善すべき事柄について家庭と連絡を取り合い、より一層共通理解を図りながら粘り強く指導していく。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革に努めた。</u>	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A B	B
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、 <u>教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。</u>	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。 ・教師アンケート	A	A
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、 <u>温かく働きやすい職場づくりに努めた。</u>	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 午前5時間制を2学期から導入したことにより、放課後に仕事をする時間が増え、2学期における若年教職員の1か月あたりの時間外勤務は1学期に比べて約17時間減少した。 児童の成長に必要な教育活動を精査しつつ、コロナ前の状態に回復させることができた。 一人の教職員が担当する校務分掌が多いことに対するサポート体制が、十分とはいえない。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年教職員が初めて担当する仕事がある場合には、具体的な手順やチェックポイントなど積極的にアドバイスをし、負担を少しでも軽減する。 先輩教職員が積極的に自分の弱みについて話題にするなど、より相談しやすい雰囲気づくりをする。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、 <u>学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。</u> 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、 <u>地域の力を学校運営に生かすよう努めた。</u>	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート ・地域アンケート	A A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、 <u>文書やホームページ等で積極的に発信した。</u>	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、 <u>相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。</u>	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇和島市教育推進員の具体的な指導・助言を受けることで、学校運営協議会の進むべき方向が明確になった。 教職員と保護者、地域が、学校運営協議会の重要性について理解を深めたことで、取組内容が少しずつ充実してきた。 学校運営協議会の熟議をさらに充実させ、具体的な行動に繋げていく必要がある。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動のサポートをする「結出小おうえんたい」のメンバーが増えるように教職員が積極的に地域に出掛けていき、校外のネットワークを更に広く強固にする。 face to faceを基本とするコミュニケーションの重要性を教職員全員が理解し、1回でも多く地域の方と関わる。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満